

横浜市小学校社会科研究会 4 学年部会 研修会記録		令和6年11月 6日 横浜市小学校教育研究会 会長 沼田 留美子 横浜市小学校社会科研究会 会長 高畠 聡 同 学年部長 八木 浩司
【提案日時】 11月 6日（水）	【さちが丘小 会場】 提案 倉方 一樹 先生（さちが丘小） 司会 塚本 航太 先生（四季の森小） 記録 山本 凌成 先生（長津田第二小）	
【会 場】 横浜市立 平沼小学校	【新吉田第二小 会場】 提案 鳥山 陽子 先生（新吉田第二小） 司会 坂本 実 先生（川和東小） 記録 河井 由佳 先生（勝田小）	
【さちが丘小学校 倉方先生】 1 提案内容 「地域に受け継がれる伝統文化 ～半ヶ谷囃子～」 2 提案者より ○概要「県の伝統文化 ＋ 地域の伝統芸能」 かつては地域の各家庭の長男が受け継いできたお祭り 今の時代ではどのように受け継がれているか。 ○単元構成 ・ほとんどの子が触れているが「半ヶ谷囃子」と知らないで、出前授業を行う。 ・無形文化財マップで「獅子舞が多い」ことに気付かせ「半ヶ谷囃子」につなぐ。 ・関わるSさん「会員募集に踏み切れない」思い 他地域のお囃子は受け継ぎ手が減少していること ⇒本気の学習問題「なぜ会員を募集しようとししないのか」 ・半ヶ谷囃子で学んだことは県の伝統文化でも同じか学習を深める。 3 協議会 「本時のゴールはどこに向かうべきか」÷「本時の学習問題はどうあるとよいか」 ○「なぜ」という問いは難しい。 ・ゴールが「責任感」「楽しいだけではない」、「やめるのが怖い」と落ち着くのは いかがか…。 ・単元のこれまでの学習を生かして答えを見つけられるようにしたい。		

これまでの学習にヒントを散らしておく。

- ・資料を「いつ」出すか。（単元構成の中で・子どもの関心に応じて）
- ・「なぜ」という問いには現状答えがない。とすればこれを考える意味はあるのか？
半ヶ谷囃子はなぜ会員が減らない、なんでなくなりそうにないのか、このための活動にヒントがあるはず。

○学習問題の代案

- ・「どんな思いをもっているのだろう」
- ・「『やめるのがこわい』とは？」
この学習問題にするとややネガティブになりそう。
- ・「続けたい」「みんなに半ヶ谷囃子を楽しんでもらいたい」に気付かせたい。
（地域から必要とされているエピソードが聞ければよいが、
実情としては当事者にもやや義務感が見え隠れしている難しさ）

【新吉田第二小学校 鳥山先生】

1 提案内容

単元名「水害にそなえるまちづくり～Aさんと見る鶴見川流域の治水対策～」

2 提案者より

早渕川・鶴見川の治水対策について調べる中で、たくさんの人と出会わせることで、本気の学習問題をつくっていきたい。実際に水害にあった地域の人のお話について、家電製品がダメになった話などを子どもたちはとても関心をもって聞いていた。

前回の提案では、本時前の時間を8、9と2時間取っていたが、8時でAさんのお話を聞き、本時に繋げるため、9時をカットする予定である。Aさんの話を聞いた後で、子どもたちに「なぜ今でも水害対策をしているのか」という疑問をもたせ、話し合わせるために、資料を変えた。今回あげた資料がよいかなど、資料についても意見をいただきたい。

3 協議会

<質問>

○早渕川と鶴見川を扱うか？ 上流、中流、下流を扱う必要性はあるか？
→鶴見川で通してよいのではないか。整理して下流に絞った方がよいのでは。

視点①

○資料について

たくさんの資料を読み取ることが難しいために資料を厳選したいとのことであるが、水害対策工事の過去資料や、鶴見川の氾濫資料など、事実を整理するためのある程度の資料は必要ではないか。

○本時のめあて

本気の学習問題として、「どうして、〇〇したのだろう」ではなく、「これから、どうしていくのだろう」という、未来に目を向けさせる言葉を使った方がよいのではないか。

視点②

○前時のあり方について

本時で子どもたちに本気の学習問題として話し合わせるためには、前時では、Aさんの話を聞かせる時間の後に、もう1時間取り、資料を使うなどして、これまでの水害対策について振り返らせ、事実を整理させておくことが必要ではないか。

＜講師の先生より＞ 富岡小学校 校長 黒木 英晴先生

- ・ 地域の人々の思い、地域文化を扱う難しさはあるが、良さもたくさんあり、守ってきている人の姿から、「文化って守っていかないといけない」と考えられることが大事。
- ・ 地域文化は、地域を「応援」していけるような形で、私たちもつくっていくのだという思いになると良い。
- ・ 他の伝統と比較しながら、「自分たちにできることは」と考えられることも大切である。

＜講師の先生より＞ 西富岡小学校 校長 黒田 由希子先生

- ・ 主に視点②について、お二人とも子どもたちの思考の流れを大事にされている。どんな資料と出合うかで流れを大切にできる。
- ・ 協働的な学びに至るまでの子どもたちの思考の流れを大切にしたい。手がかりは事象や資料であるが、子どもが資料を読みこなすために、資料や事象とじっくり向き合う醸成の時間が必要ではないか。教材の世界に入り込めるようにしていくのが良い。

文責 河井 由佳（勝田小） 山本 凌成（長津田第二小）